


# 京都教区時報



京都教区広報委員会  
 京都教区本部事務局  
 京都市中京区  
 河原町通三条上る  
 TEL 075-211-3025  
 FAX 075-211-3041  
 honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <https://www.kyoto-catholic.net> 4345

### 第3回 対話

2023年 司教年頭書簡  
 「コロナ時代を生きる信仰Ⅲ」  
 「わたしのシノダリティを創ろう」  
 を受けて



「私のところも、お世話になった。本当によくしてもらったよ。地域の中で評判もいい」。昨年7月、ご近所の方と立ち話をした際にいただいた言葉です。その方の親御さんは、松阪市内のカトリックの特別養護老人ホームに入居されていたことです。

私は担当司祭として、シノドスに関する教区内のアンケートや、その後、まとめられたものにも目を通してきましたが、そのことを通して気付きや共感する意見が多々ありました。その中で一点挙げるとすると「カトリックの幼稚園や施設は、信徒でない人にキリスト教の価値を伝える場所であることを、明確な活動の指針として意識している。小さな子どもや支援の必要な人と接し、慈愛の心で奉仕する現場である。『カトリックの教育施設は信徒でない人への影響力が大きく敷居も低い』という意見もある」（京都司教区 回答のまとめ 質問3の4）。正直、先生方や職員さんが信仰に導かれることは多くはないと思いますが、命を大切にするという価値観を共有できます。以前、伊勢の子ども園の先生方に講話を依頼された際、「カトリック教育」にどう取り組んだらいい

のかという質問を事前にいただきませんでした。キリスト者でない先生方の日頃の素朴な疑問だと感じました。「家族・友達・いのち・平和については、信仰を持っていくか否かに関わらず共有できますよね」というお話をさせていただきました。

#### 大塚司教の年頭書簡のキーワード

の一つは、「対話」ではないかと思えます。キリスト教諸宗派、諸宗教、社会、地球…。

キリスト者は宗教間対話を通して、互いの宗教の違いを知り合うとともに、人類共通の普遍的な価値（正義・平和・平等・自由）のために協働することで互いの一致を目指します。これも重要なシノダリティです（年頭書簡7）。そう、良心に基づき日々の仕事や生活を大事にしている方々とも協働できます。

シノドス担当司祭 鶴山進栄  
 (三重地区南部ブロック担当司祭)

司教年頭書簡は

こちらから↓



## 人事異動のお知らせ

### I. 司祭・司牧者の異動

（4月10日付）

京都北部ブロック 担当司祭

頭島光師／レデンプトール会

京都北部ブロック 担当司祭

三輪周平師／レデンプトール会

洛東ブロック 担当司祭

グエン・バン・ナン師／クラレチアン宣教会

三重北部ブロック 担当司祭

フェリペ・クエバス師／グアダルペ宣教会

（旧任命：滋賀ブロック 担当司祭）

滋賀ブロック 担当司祭

エミリオ・フオルトウール師／グアダルペ宣教会

（旧任命：京都南部地区 協力司祭）

奈良ブロック 協力司祭（語学研修）

メディナ・ブルース師／フィリピン宣教会

京丹ブロック 共同宣教司牧協力者

シスター ポーリン・フェルナンデス

（旧任命：奈良ブロック 共同宣教司牧協力者）

／カルメル宣教修道女会

奈良ブロック 共同宣教司牧協力者

シスター タンカマ・チェリヤン（ロサ）

（旧任命：洛東ブロック 共同宣教司牧協力者）

／カルメル宣教修道女会

### II. 新しい職務の追加任命

（1月1日付）

京都カトリック青年センター 担当司祭

ソ・ウォンハ師／チェジュ教区

（4月10日付）

神学生養成担当者

菅原友明師／京都教区

いのち・平和・環境委員会 担当司祭

国際協力委員会ラテン・アメリカ コミュニティー司牧担当

フェリペ・クエバス師／グアダルペ宣教会

聖書委員会 担当司祭

エミリオ・フオルトウール師／グアダルペ宣教会

国際協力委員会ベトナム コミュニティー司牧担当

グエン・バン・ナン師／クラレチアン宣教会

### III. 教区外へ転出

谷口秀夫師／レデンプトール会

（旧任命：京都北部ブロック 担当司祭）

ジャン・レイモンド・ジラル師／レデンプトール会

（旧任命：京都北部ブロック 担当司祭）

ユン・サンホ師／クラレチアン宣教会

（旧任命：洛北ブロック 担当司祭）

京都司教区 共同宣教司牧 担当者一覧

2023年4月10日付

教区司教	大塚喜直	司教総代理	瀧野正三郎	本部事務局長	北村善朗
派遣	森田直樹	海外留学	大塚乾隆	司教館付	花井拓夫(高野在住)

**京都北部ブロック**

\*頭島 光 三輪周平 ホセ・アントニオ C.

(丹後、西舞鶴、東舞鶴、福知山)

**滋賀ブロック**

\*小立花忠 ソ・ウオンハ  
エミリオ・フォルトウール Sr.レオニダ(協力)

(大津、唐崎、安曇川、草津、彦根、長浜)

<京都南部地区>

**洛北ブロック**

\*ウィリアム S.B. 北村善朗

(衣笠<山国・宇津>、高野、小山、西陣、北白川)

**洛東ブロック**

\*瀧野正三郎 菅原友明  
グエン・バン・ナン Sr.テッシー G.(協力)

(河原町、伏見、山科、桃山)

**京丹ブロック**

\*一場 修 モンテロ G.ホルヘ  
Sr.ポーリン・フェルナンデス(協力)

(西院、桂、長岡、九条、丹波)

**山城ブロック**

\*福岡一穂 ホン・ユンハク  
Sr.リーナ・ファラス(協力)

(田辺、宇治、精華、青谷、八幡)

**奈良ブロック**

\*柳本 昭 G.ランディ  
M.ブルース(協力) Sr.服部悦子(協力)  
Sr.ローマ・ミンジ(協力)  
Sr.ロサ C.(協力)

(奈良、登美が丘、富雄、大和郡山、御所、西大和、大和高田、大和八木)

<三重地区>

**三重北部ブロック**

\*A.マチアス ブリー・ヨハネ  
R.ブルーノ フェリペ C.

(四日市、桑名、鈴鹿)

地区協力：ヴィクトール D.

**フィリピン人司牧担当**

京都北部・南部: Sr. 信田  
滋賀: Sr. ロリタ  
三重北部: Sr. ヘンリエット  
三重南部: Sr. ロサリオ

**三重南部ブロック**

\*奥村 豊 鶴山進栄 ホセ A.ゴンザレス

(津、久居、上野、名張、伊勢、松阪)

\*印はモデラートル

青年のための黙想会

「あなたのためには永遠のものに  
なるに値していませんか？」

2月4日(土) 開催

報告 信仰教育委員会 奥楚 さと子

教区の信仰教育委員会主催「青年のため  
の黙想会」は、コロナ禍以前には1泊  
2日で年1〜2回行っていました。今  
年度は、半日黙想会を年2回加えること  
になりました。回数を増やすことで、仕  
事や学業で忙しい青年たちが、できるだ  
け黙想会に参加できるようにとの思いで  
企画しています。青年のみなさん、ぜひ、  
黙想会に参加してください。また小教区  
の教育部の方々、青年たちのご支援をお  
願いたします。

さて、今年度、  
第1回目の半日黙  
想会が、エミリ  
オ・フォルトウー  
ル師の指導で、望  
洋庵において行わ  
れ、5名の青年た  
ちが参加しました。  
テーマは「あな  
たの生き方は永遠  
のものになるに値  
していますか？」



です。静かな、晴れた寒い冬のひととき、  
暖かい望洋庵で、温かい雰囲気の中、青  
年たちは左記のプログラムにそって、  
ゆっくり、深い黙想をしました。

◇第一講話「父なる神さまの御心を行い、  
喜ばれたイエス」

◇黙想

◇第二講話「イエスによって、イエスと  
ともに、イエスのうちに生きる」

◇黙想

◇第三講話「イエスに結ばれて死に、  
復活する」

◇黙想

◇ミサ

◇ふりかえりと分かち合い 解散

◇黙想時間に、希望者はゆるしの秘跡

◇黙想は聖堂でも集会室でも庭でもどこ  
でも自由

冒頭、エミリオ師から、今回のテーマ  
「あなたのためには永遠のものになるに  
値していませんか？」について「昨日2月  
3日は、高山右近の記念日、明日2月5  
日は、日本26聖人の祝日です。殉教者た  
ちは、永遠に生きている。永遠の命を得  
ること、それは、神から見えてどういう生  
き方で、どんな価値があるのか。神から  
見て、いい人生、実りある生き方をした  
い、そのことを黙想しましょう」とのお  
話がありました。

オリエンテーションの後、まず「静か  
になって、心配ごとや他の雑念を払っ  
て、神に集中」しました。講話では、聖  
書にそって、「神がなぜイエスを復活さ  
せたのか？」という問いを軸に、イエス  
の生き方を思い起こし、イエスの祈り、  
奇跡、病人の癒しなど、御父から与えら  
れた力(技)で神の業を成し遂げられた  
ことについて考えました。では、私たち  
はどうか。神から与えられた力(技)で  
はなく、自分勝手に生きていないか、洗  
礼を受けて新しい人となったはずの私た  
ちは、どう生きて、どう死ぬのか、イエ  
スとともに生きているのかなど、自分自  
身に問いかけました。イエスとともに生  
きることは、神からいただいた復活の  
のちをいただくことです。それは、聖霊  
の導きによって、イエスと一緒に生きて  
いく、イエスのいのちのうちに生きてい  
くことで、希望に満ちたことであると神  
父様は語られました。また、殉教者はイ  
エスに従って生き、死を通して永遠の  
いのちをいただきました。「私」の生き方  
をイエスと結びつけるため、どうすれば  
よいかという神父様からの問いかけにつ  
いて、参加者各々が、黙想し、考えまし  
た。

ミサの後、参加者全員で分かち合いと  
ふりかえりを行い、「キリスト者として、  
どう生きるのか」という、大切な課題を  
胸に、日常に帰っていきましました。



## 2023年度 京都司教区オンライン聖書講座

## ともに歩んでくださる神

## —シノダリティのこころを求めて—

	配信日	テーマ	講師
1	5 / 11	旅するもの わたしのシノダリティを創ろう	大塚喜直 京都司教区司教
2	5 / 25	旅の始まり 人祖の旅（創世記より）	一場 修 マリスト会司祭
3	6 / 8	この道を歩む 太祖アブラハムの旅	菅原友明 京都司教区司祭
4	6 / 22	主の道を生きる モーセと神の民の旅	西 経一 神言修道会司祭
5	7 / 6	主に呼ばれて（Vocati）—神の命に触れる イエスの召命と弟子たちの召命	英 隆一朗 イエズス会司祭
6	7 / 20	死と復活を証しする イエスの旅と過越し	中川博道 カルメル修道会司祭
7	9 / 7	神のいのちのみことばを通して	北村善朗 京都司教区司祭
8	9 / 21	エウカリスチア（聖体）を通して	大塚乾隆 京都司教区司祭
9	10 / 5	主との交わり（アガペ）を通して	山本久美子 聖ヨゼフ修道会会員
10	10 / 19	神の愛と恵みに満たされて 使徒言行録より	澤田豊成 聖パウロ修道会司祭
11	11 / 2	福音の証人として パウロの宣教と世界教会	阿部仲麻呂 サレジオ修道会司祭
12	11 / 16	旅の終わりと始まり マラナタ・インマヌエル	鈴木信一 聖パウロ修道会司祭

◆期 間／2023年5月～11月（全12回）

◆配信日時／上記木曜日10時30分配信（講座時間60分～80分程度）

◆配信方法／申込者限定配信（3か月間録画視聴可能）

◆対 象／どなたでも（京都教区外の方もどうぞ）

◆会 費／4,000円（1回のみ受講1,000円）

◆申込方法／京都司教区内の小教区に掲示してある聖書講座のお知らせか、教区のホームページをご覧の上、メールにてお申込みください。

◆お問合せ／カトリック京都司教区聖書委員会 e-mail : seisho@kyoto.catholic.jp

☎ 075-366-6609（月～木 10:00～16:00 金 10:00～12:00）



↑  
詳細はこちらから  
確認できます

## 村上透磨神父様 ありがとうございました

2023年2月18日帰天



2016年、叙階50周年の記念の年に、一緒に叙階された全世界の仲間と共にヴァチカンを訪問、フランスコ教皇にも謁見されました。車椅子の村上神父は、いつも輪の中心でした。

## 故・村上透磨神父略歴

- 1938年5月26日 京都市に生まれる  
 1938年6月5日 西陣教会にて受洗  
 1966年1月6日 ローマ聖ペトロ大聖堂にて  
 教皇パウロ六世より司祭叙階  
 1962～1969年 ローマ留学  
 1970年 高野教会助任司祭  
 1972年 津南教会主任司祭  
 1974年 河原町教会助任司祭  
 1977年 桃山教会主任司祭、聖母女学院講師  
 1998年 鈴鹿教会・亀山教会主任司祭  
 2000年 三重北勢ブロック担当司祭  
 (鈴鹿・亀山・桑名・四日市教会)  
 2009年 京都南部地区東ブロック協力司祭  
 (河原町・北白川・高野・山科教会)  
 2011年 京都南部地区洛東ブロック協力司祭  
 (河原町・伏見・山科・桃山教会)  
 2013年 京都南部地区協力司祭  
 2016年 司祭叙階50周年  
 2023年2月18日 帰天 (84歳)



しばらく発行が止まっていた京都教区時報は、1977年6月に49号として、再刊第1号が出されました。49号から編集に携わってこられた村上神父様。2023年3月号まで教区時報1面の右上に「編集長」としてお名前が掲載されてきましたが、今号からありません。淋しくなりました。46年間にわたり教区時報に携わってくださり、心からの感謝を捧げます。



1986年から始まった京都教区聖書委員会の「聖書講座」には、初期のころから関わっていただきました。この写真は、昨年の聖書講座の動画を撮影した時の神父様です。たくさんの本や資料を準備し、しっかり1時間お話していただきました。この講座は右記QRコードより視聴できます。今年オンライン聖書講座「ともに歩んでくださる神—シノダリティのころを求めて—」は、村上神父様企画の最後の講座となります。



### 村上透磨神父葬儀ミサ 大塚司教説教

本日はお忙しい中、京都教区司祭トマス・アクィナス村上透磨神父様の葬儀ミサに多数ご参列くださり、京都司教として厚くお礼を申し上げます。

透磨神父様は基礎疾患の糖尿病を長らく治療しておられ、数年にわたって透析をなさっていました。最近はだんだん体力が衰え、透析のための通院も無理な状況になり、1月20日に入院されたばかりでした。息を引き取られる直前までお話もなさっていたようですが、呼吸が困難になり、2月18日土曜日午前10時51分、慢性腎不全により帰天されました。84歳、司祭生活は57年でした。

村上家は6人のご兄弟姉妹ですが、すでにお兄様の村上真理雄神父様とお姉様のヌヴェール愛徳修道会のシスターモニカは帰天されております。57年の司祭生活を祈りと犠牲をもって捧げくださったごきょうだい、ご遺族、ご親族の皆様、心よりお礼とお悔みを申し上げます。ここ数年は、時々一緒に食事をしていました。入院されるということで1月14日にご訪問し、病者の秘跡を行い、ゆるしの秘跡も受けられました。お祈りが終わった時には、本当に晴れやかな、すっきりとした表情をなさっていました。それが私の神父様との最後になりました。今日は雪が降って、京都中が真っ

白になりました。詩編に、「雪より白くなるように私の心を清めてください」という言葉があるのですが、神父様は真っ白な心で神様の元に召されたのではないかと思います。

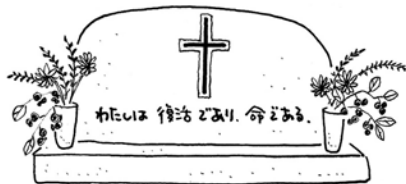
神父様は1938年に、信仰熱心なご両親の元にお生まれになりました。お兄様の真理雄神父様が小神学生として福岡の泰星中学に入学されたのに続いて、透磨神父様も司祭職を志し、同じく泰星中学・高等学校から、上智大学哲学科研究科、さらに神学部へと進まれました。そしてローマに留学されて、ウルバノ大学の神学部で司祭のための準備、また神学を勉強されました。ちょうどその頃、第2バチカン公会議が開催中でしたが、その終了直後の1966年1月6日、日本やアフリカ、アジア諸国から集まっていた多くの同級生とともに、聖ペトロ大聖堂で、教皇パウロ六世から司祭叙階をお受けになりました。第2バチカン公会議は、それまでの教会の教えや考え方が大きく変わっていく時でしたが、まさにその時、ローマで勉強をなさっていたという体験が、神父様にはすごく印象に残っておられたと思います。

1970年に帰国されてからは、長年京都教区内の教会でご奉仕くださいました。高野教会から始まって、三重県の津南教会、河原町教会、桃山教会、そして共同宣教司牧になってからは河原町教会、三重県の鈴鹿教会にも赴任され、河原町教会に戻って来られました。鈴鹿教会にいらっしゃる頃から、少しずつ体が

不自由になってこられ、鈴鹿の信徒の皆様には大変お世話をいただき、感謝申し上げます。河原町カトリック会館の8階でお住みになつていた時、エレベーターで車椅子に乗って降りてこられ、お元気な間は京都南部地区小教区へミサを捧げに行ってくださいました。

司祭生活57年ですから、京都教区のおゆる職務やお仕事を歴任されました。特に皆さんにご紹介したいのは、京都教区時報です。透磨神父様は田中司教様から教区時報の再刊の時に編集を任せられました。途中から、とにかく欠かさず毎月出しなさい、というのが田中司教様の至上命令となり、その通り、今日まで教区時報は毎月発行されております。透磨神父様はずっとその編集に携わってくださいました。

また、1987年に京都で行われた「ナイス」と言われる第1回福音宣教推進全国会議という大きな会議があったのですが、京都教区が招致し、透磨神父様はその実行委員として、その当時、京都の若い司祭団の中心として準備を進めてくださいました。ナイスも大成功に終わり、その後、日本の教会が大きく福音宣教に舵を切るという中で、神父様や京都教区の司祭たちも本当に誇らしい思いだった



と思います。

それから、聖書講座です。京都教区では1984年から聖書講座が始まり、みことばに接しようという動きの中で、透磨神父様は、長らく講座の企画を続けてくださいました。1年に10回から15回の講座を組み、全国から講師をお招きしての聖書講座でした。毎回緻密な計画を立て、テーマを設定し、テーマに添って聖書の箇所を指定し、そして講師にお願いするということを行っていました。おかげさまで、京都教区の聖書講座は全国的に有名になり、そのあと本も出ました。教区の聖書教育の基礎を築いてくださいました。今年の聖書講座も5月から始まりますが、その講座の計画も行い、帰天直前まで最終的な調整を、スタッフの方としてくださっていました。

もう一つは、病者・障がい者の会である子羊会の指導司祭も長年お勤めくださいました。病者に寄り添う神父様の姿が見られました。途中からご自分も病者になってしまわれましたが、できる限り研修会や黙想会に参加なさっていました。

神父様は本当に謙虚な方でした。今日、葬儀ミサのために選んだ聖書の箇所は、第1朗読はエレミヤ書(1・14)です。これは福音(ヨハネ15・17)とともに、神父様が金祝の時に自らお選びになった聖書の箇所です。預言者エレミヤが召命を振り返る時に、神様に「私は語る言葉を知りません」と言います。このエレミヤの言葉に、村上神父様の謙虚

さがよく映し出されていると思います。「私は語る言葉を知りません」という謙虚さは、神父様の一貫した姿勢でした。神父様は聖書を語る時、まして信仰を語る時に、自分の考えを決して押し付けたりはされませんでした。徹底してみことばそのものを語られました。それは、何よりも神様に対する小さきものとしての謙虚さからくるものだったと思います。

ちなみに、神父様は小さき花のテレジアが大好きで、よく引用されたり、お話をされたりしていました。ご存じのように謙遜、謙虚さの極みを生きたテレジアの靈性に深く共鳴し、自らそれを模範としていらっしゃったのではないかと思います。今、天国に行かれて大好きだったテレジアと対面できて、とても喜んでおられるのではないかと思います。

そして福音は、イエス様が与えられた新しい掟、互いに愛し合いなさい、という言葉です。私たち人間同士が愛するためには、その前に神の愛があり、その神の愛が私たちを包み、その愛が互いに愛し合う隣人愛の原動力になるといふこと、それが神父様の信仰の原点であり、ご家族、ご両親を通していただかれた神様の愛を、そのまま司祭職の原点となさったのではないかと思います。神父様は司祭として私たちを愛し、許し、励まし、牧者として、キリストにしっかりと繋がり、信徒のために、教会のために己を捨てて全てを優先させ、また病床の中にあっても犠牲を捧げながら、多くの羊のために奉仕されました。

神父様は、一貫してその司祭職への熱意は変わらなかったのではないかと思います。決して人前で威張ったり、自分の業績を数えるようなことをなさったりされるタイプではありませんでしたが、その根っこは結構頑固でして、その頑固さが信仰を貫く司牧者としての熱心さを保つことに繋がったのではないかと思います。

今日は祭壇に、東京教区の深水神父様、それから大阪教区の村田神父様も駆けつけてくださいました。先ほど申しましたローマで叙階された同級生の方々がアジアカラローマで集まったり、旧友を訪ねてアフリカに行ったりなさったそうです。

透磨神父様は本当に多くの友人に恵まれた方でした。私たち後輩も、司祭団の一員として本当にお世話になりました。皆様も同じ思いではないかと思えます。神父様を突然お送りすることになりましたが、全てを成し遂げてくださる神様に、透磨神父様をお委ねしたいと思います。

どうぞ神父様のために、全ての罪のゆるしと豊かな復活の恵みが神様から与えられますようにお祈りください。





トマのつぶやき  
捨てるとおっしゃいな



幼きイエスのテレーズと、姉セリーヌとの会話がある。「私には修得しなければならぬものがないはいあります」。

「お姉さま、修得すべきものというより、捨てるべきものとおっしゃいな」。

神に近づくということは、私が探し当てることではない。神が招いてくださることなのだ。

老いて歩めず、病に伏して、動けなくなつた時、主が天の伴を従えて迎えに来てくださる日々を想うことができたなら、老いて病む日々は「恵みの時」なのかもしれない。

自分が獲得したものの執着が消えた時、主は軽々と抱き、アッバ父の元へお連れくださるのかも知れない。

村上透磨

村上透磨神父様は、入院中も病院のベッドで、この「トマのつぶやき」の原稿を書いておられました。

最後まで教区時報を愛し、聖書講座を心にかけてくださいました。主に軽々と抱かれ、アッバの元へ行かれても、見守ってくださいに違いない。

「トマのつぶやき」はまだしばらく連載します。

広報委員会

2023年度 京都カトリック青年センター運営委員紹介

2023年度の京都カトリック青年センター事務員及び運営委員を紹介します。

👤: あだ名 (名まえ)

👤: 学生 or 社会人

📍: 所属教会 (所在地)

💬: 一言

京 都 南 部

👤 もとき

👤 社会人 📍 西院 (京都府京都市)  
今年もイベントを企画しています！ 最近顔出していない青年の皆さん、何してるんですか出てきなさい。

👤 のんちゃん

👤 社会人 📍 河原町 (京都府京都市)  
コロナ生活にも慣れてきました。青年たちがまた集まれる現状を嬉しく思います。私たち青年たちのためにお祈りください。

👤 じんこ (橋本仁子)

👤 社会人 📍 河原町 (京都府京都市)  
若手と呼ばれるには中途半端な年齢になって参りましたが、青年活動を盛り上げていけるよう頑張ります！

👤 はやと

👤 社会人 📍 田辺 (京都府京田辺市)  
今年も青年センターをよろしく願います。

事 務 員

👤 るっちゃん (池田瑠智亜)

👤 学生 📍 唐崎 (滋賀県大津市)  
青年活動を通して、沢山の方にお会いできることを楽しみにしています！

三 重

👤 さとこ

👤 社会人 📍 伊勢 (三重県伊勢市)  
学生時代から関わり続けて12年目です。一周しました。永遠の19歳もそろそろ卒業します。

※個人情報保護のため名まえの記載は必須事項としておりません。運営委員会などでお会いできましたら、記載のあだ名でお呼びください。

※現在、奈良に在籍する青年はいませんが、京都教区内全域の皆さんとのつながりを楽しみに、活動しています！

京都教区の青年の中心となって青年活動の企画や運営、そのサポート等を行いたいと考えています。

2023年度も、どうぞよろしく願います。

任期：2023年4月1日～2024年3月31日

青年センターあんでな



大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



4月のお知らせ

教 区



広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までにFaxまたはメールで本部事務局までご連絡ください。
Fax/075-366-6679
メール/honbu@kyoto.catholic.jp
教区時報6月号の原稿締切日は4月17日㊤です。

ブロック

奈良ブロック

2023年度聖書講座(対面講座)
ともに歩む教会～マタイ福音書による～われらと共にいる神(インマヌエル)

- 第1回「生まれる子は、インマヌエルと呼ばれる」受肉の神秘
日時：4月22日㊤ 10:30～12:00
場所：奈良教会
講師：中川博道神父(カルメル修道会)
第2回「貧しい人の中のインマヌエル」
日時：5月20日㊤ 10:30～12:00
場所：大和八木教会
講師：柳本 昭神父(京都司教区)
第3回「小さな人びとの中のインマヌエル」
日時：6月10日㊤ 10:30～12:00
場所：奈良教会
講師：奥村 豊神父(京都司教区)
第4回「世の終わりまで、あなた方と共にいる神」
日時：7月1日㊤ 10:30～12:00
場所：大和八木教会
講師：大塚喜直司教(京都司教区)

要申込：全4回 2,000円 事前に郵便振込み
郵便振込口座00990-0-115473
名義「カトリック奈良地区協議会」
締切：4月14日㊤
当日参加：1回 1,000円受付にて
信者でない方、学生は無料
問合せ：090-4485-9968 シスター服部
(電話時間は必ず19:00～21:00)

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

祈りと歌の集い 9日㊤ 14:00
河原町教会聖堂 一般の方も参加自由
問合せ：075-951-4283 則武 隆
コーロ・チェルステ(女声コーラス)
練習：13日㊤ 10:00 27日㊤ 10:00
河原町教会2階楽席
問合せ：075-701-3303 岡田久美

聴覚障がい者の会・京都グループ

手話表現学習会(聖書と典礼)
日時：18日㊤ 13:00～15:00
場所：希望の家地域福祉センター
京都市南区東九条東岩本町31-10
新型コロナの状況により中止となる場合あり
問合せ：Tel・Fax：075-723-1135 傳 裕子

心のともしび ラジオ番組案内

(全国34局で放送)
KBS京都 ㊤～㊤ 朝5:55
㊤ 朝5:15
ラジオ関西 ㊤～㊤ 朝5:00
㊤ 朝6:05
毎日放送 ㊤～㊤ 朝5:45
㊤ 朝4:55

4月のテーマ「生きがい」
ホームページもご覧ください。
長年この番組に寄稿して下さった遠藤周作氏の生誕百年を記念して、当時のエッセイを新しく朗読し、毎月第4日曜日に放送します。



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079-431-8601